

令和 7 年度主要事業計画

※○は新規事業

(1) 資料・情報

- ア 長野県唯一の県立図書館の責務として、信州に関する地域資料（郷土資料）を網羅的に「収集」し、次世代に確実に継承する「保存」と、資料を最大限活かす「利用」とを戦略的にバランスよく行うため、県内外の関係機関との役割分担をし、蔵書構築を進める。
- イ 利用者自身が課題を見つけ、調べ、解決する力を身につけることを促す調査・相談（レファレンス）を実施する。国立国会図書館が運営する「レファレンス協同データベース」に事例を登録することで、調べ方を発信していく。
- ウ 情報アクセス環境の地域間格差是正のため、相互貸借送料支援および全県向けインターネット貸出を実施し、普及させる。
- エ 収集した資料を県民が利用し、さらなる資料を「創造」していく支援を行う。
- オ 読書バリアフリーに資するサービスについて、分かりやすい広報を行う。
- カ 戦後 80 年を迎え、所蔵資料を活用した、当時の世相や当館の活動を紹介する企画展を実施する。

(2) 空間の整備と、それに伴う活動の推進

- ア 「共知・共創」をコンセプトとする「信州・学び創造ラボ」において、県民の主体的活動と学びのコミュニティづくりを促し、これからの公共空間や新たな学びのモデル構築を図る。
- イ 試行錯誤ができるツールとして「モノコトベース」をさらに活用し、コミュニティや関係機関とも協働しながら、新たな創造の仕組みを拡げていく。
- ウ 実空間と情報空間を融合させ、ICT を利活用したコミュニケーションの場を企画・提供する。
- エ 図書館を、新しい出会いと発見が促される場と捉え、1 階児童図書室・2 階一般図書室における新しい発見・学びのプログラムを展開する。
- オ ボードゲームや学習に資する資料の「体験の貸出」を、市町村や学校の図書館に展開する方策を検討する。
- カ 正面ロビー、中二階壁面、階段壁面を温もりのある空間にするため県産材を使った木質化工事を実施、また、長野県ゼロカーボン戦略に伴い電力使用量を削減するため図書館照明の LED 化を行う。

(3) 各県域・分野における県民の学びを支える人材育成支援

- ア 司書としての役割を果たす人材の育成として、初任・中堅等向けの研修や、共通する課題に取り組み、各館の運営に生かす「これからの公共図書館研究会」を開催する。
- イ 広域単位での公共図書館・学校図書館に対する研修会の開催支援（企画相談、講師派遣・紹介等）や、各地域の会議等への出席を通じて、各地域の活動を後押しする。
- ウ 広く社会教育に関わる分野や全国の取り組みを俯瞰したテーマ設定のもと、県民の学びを創発する機会として「信州発・これからの図書館フォーラム」等を開催する。
- エ 信州における価値ある地域資源の共有化をはかり、新たな知識化・発信を通して、地域住民の学びを豊かにし、地域創生につなげることを目的とした「信州 知の連携フォーラム」を一層推進する。

(4) 「長野県 eLibrary 計画」によるデジタル化・ネットワーク化の推進

- ア 図書館機能の高度化の方策として、県内各種機関所蔵情報のデジタル化・公開支援、手続き・サービスのデジタル化、空間や場のネットワーク化と、これらを融合し使いこなす学びを推進する。
- イ 自ら学び、調べるためのコンテンツとして、地域資料（郷土資料）を優先的に電子化し、「信州ナレッジスクエア」のコンテンツを拡充するとともに、長野県で生産される知的生産物を収集・保存・発信で

きる仕組みを提供する。

ウ 市町村と県による協働電子図書館「デジとしょ信州」及び「県立長野図書館電子書籍サービス」によって、読書バリアフリー、学校と連携した活用、地域資料（郷土資料）の電子化・公開を進める。

エ 図書館システムの更新

防災や防犯、既存基本 OS のサポート切れ、システム変更に伴うリンク切れ等への対応を図るため、当館の基幹業務システムとアーカイブシステムの更新を行う。